

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

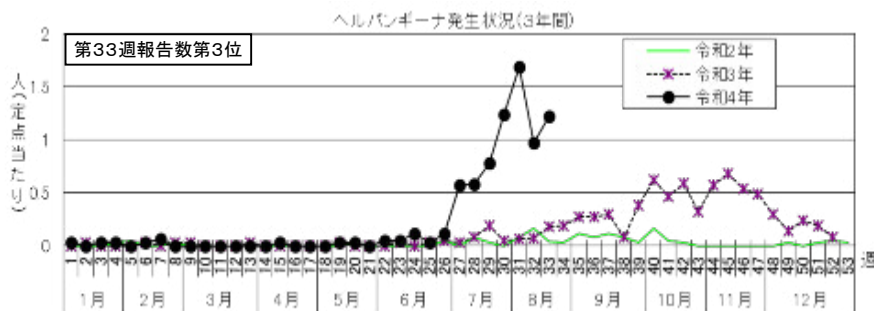
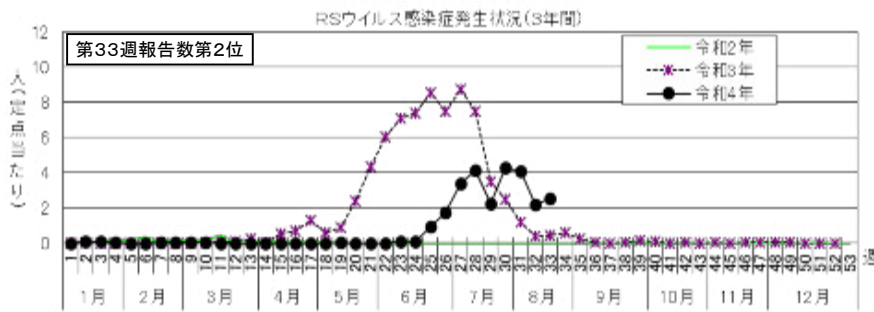
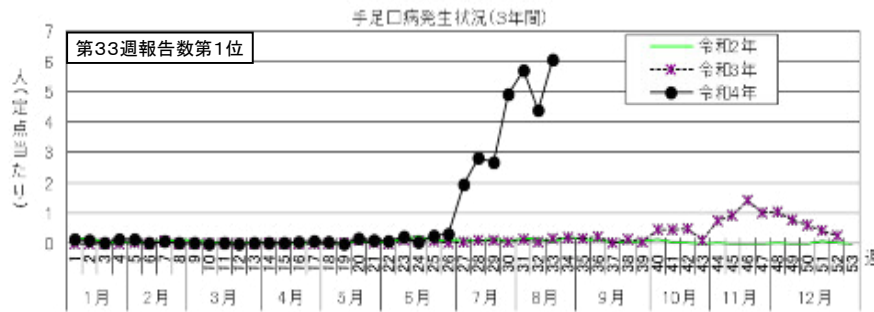
令和4年8月15日（月）～令和4年8月21日（日）〔令和4年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は6.06人と前週（4.38人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.53人と前週（2.18人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.22人と前週（0.97人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～急性灰白髄炎（ポリオ）～

急性灰白髄炎（ポリオ）は、ポリオウイルスを原因とする感染症です。多くは無症状ですが、神経細胞に感染するため、感染者の約0.1%に弛緩性の麻痺を残します。我が国では昭和36年にポリオ生ワクチンを緊急輸入し、小児に投与することで患者数が激減し、昭和39年からは、ポリオ生ワクチンの定期予防接種が始まりました。その後、国内での患者発生はみられなくなりましたが、ワクチン由来のウイルスによる麻痺が問題となり、現在は不活化ワクチンに切り替えられています。

しかし、国外の一部の国では現在も患者が報告されており、令和4年7月には米国においても約10年ぶりにワクチン由来の麻痺の患者が確認されました。国内でも、ワクチン接種率が低下すると、患者発生のリスクが高まりますので、定期予防接種は忘れずに受けましょう。

日本のポリオ症例数の推移(1947年～)



急性灰白髄炎とは？

【感染経路】

接触感染、糞口感染

【潜伏期間】

3～35日間（通常7～21日間）

【主な症状】

微熱、頭痛、咽頭痛、無菌性髄膜炎、急性弛緩性麻痺

※感染しても症状の出ない人（不顕性感染）が90～95%

【予防方法】

不活化ポリオワクチンの接種：生後3～12か月に初回接種3回、初回接種から12～18か月後に追加接種1回

